



第13号

2017.12.20

主な内容	さらなる地域創造活動に向けて 理事長 鈴木 政義…… 1	荒川総合水防演習の参加報告 広報部…… 4
	にいがた地域創造センターの貢献に感謝します 新潟県土木部技監 中田 一男…… 2	長生橋80周年事業 長岡地域整備部…… 5
	身近な社会資本の見学会 新潟地域整備部長 久須美恵一…… 3	活動状況報告…… 6 河川情報モニター実施報告及び 都市公園情報モニター実施報告…… 7



さらなる地域創造活動に向けて

理事長 鈴木 政 義

全国各地から初雪のたよりを聞く季節となり、日本列島が度重なる災害に見舞われた一年も暮れを迎える頃となりました。

会員の皆様には、日頃から、にいがた地域創造センターの活動に対しまして、ご支援ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

当センターでは、会員各位の長年培った建設技術や行政経験を活かして、様々な取組みを進めており、「河川情報モニター」や「都市公園モニター」は、当センターの基幹的な活動として、継続して行っているところです。その他、新潟県土木部や新潟県建設技術センターが実施する講習会やセミナーへの講師の派遣も行っており、今後も当センター会員の経験や技術を活かした活動に取り組んでまいります。

その他、近年の活動として、「身近な社会資本の見学会」や「地域懇談会」があります。

「身近な社会資本の見学会」については、新潟県からの委託により、将来の建設業を担う高校生を対象に、社会資本の役割と建設業への理解を深めてもらうことを目的に、山の下閘門排水機場と通船川を題材として、これまで5回実施してきました。特に、通船川と信濃川との2mの水位差の乗船体験は、低平地における社会資本の役割を実感できる貴重な機会となっております。さらに昨年、建設中の現場見学会をプログラムに追加し、社会資本の建設過程の見学と現場技術者との意見交換を行っており、建設業への理解を深めてもらうための有意義な場となっていると感じております。

地域懇談会については、当センター役員と地域の会員との交流の機会として、県地域整備部の協力も頂きながら、平成24年より実施してまいりました。村上、糸魚川、十日町、南魚沼と4回の懇談会を実施し、今年は11月に新津地域で実施したところです。今後も、会員相互の交流を深めて頂く機会として、また新たな会員加入の機会として、開催を継続してまいります。

今年は、羽越水害から50年、長生橋誕生から80周年となることから、各地で多くの関係行事が行われました。幾多の困難に立ち向かった先人の足跡を振り返るとともに、未来に向かって社会資本の役目を伝承していくことの重要性を感じた年でありました。

昨今、社会資本を支えてきた建設産業は、担い手や技術伝承などの面で厳しい状況に立たされており、今後さらに厳しさを増すことが予想されます。当センターの活動につきましても、これからの時代に求められる活動は何かを考え、当センターの果たす役割について模索していく必要があると感じております。

今後も、新潟地域の活性化に向け当センターの特徴を活かした取組みを展開してまいりますので、県ご当局をはじめ会員及び賛助会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。報告とさせていただきます。



にいがた地域創造センターの 貢献に感謝します

新潟県土木部技監 中田 一男

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

本県では、この3年間、自然災害の発生は多くありませんでしたが、7月に発生した梅雨前線豪雨では、河川施設を中心に多くの公共土木施設が被災し、今年の被害額は過去10年間で2番目の大きさとなっています。災害復旧にあたっては、土木部の先輩方が残した教訓「土木部危機管理の十六箇条」のひとつである「全職員で災害に立ち向かうべし」の教えどおり土木部が一丸となり、被害の大きかった地域機関へ県内各地から応援職員を派遣し、7月災害の査定につきましては、ほぼ10月末までに終えることができました。しかしながら、その査定のゴールが見えてきた10月下旬に台風21号が本州に上陸し、上越地方を中心に再び大きな被害が生じました。上越や糸魚川地域整備部などでは、7月から12月まで息つく暇のない災害査定の対応となりましたが、査定後も引き続き、地元の早期復旧の期待に応えるために頑張っていきたいと考えています。

このたびの災害では、貴センターの豊富な経験に基づく現場調査の応援をいただいたほか、10年以上も多くの皆様に継続していただいている「河川情報モニター」のおかげでスムーズに査定を受けることができました。この紙面をお借りしまして、県への御支援に対して改めて感謝申し上げますとともに、皆様のふるさとへの貢献に敬意を表します。

今年も残りわずかとなり、来年は平成になってから30年という節目の年です。振り返りますと、平成に入ってからIT技術が随分と進展しインターネットが普及するとともに、最近では土木の分野にも新しい技術としてICTの活用が少しずつ進んできています。天皇陛下退位の話があり平成時代も残すところが僅かですが、次の新しい時代にもICTの活用を含む新たな土木技術の更なる進展を期待しており、土木部も時代の潮流に乗りながら技術力を向上させていきたいと考えています。

今後とも貴センターにおかれましては、建設技術の豊富な知識と経験を社会に還元し貢献いただくことを期待するとともに、皆様の益々の御発展を心から祈念いたします。

【第5回 地域懇談会 in 新津】活動報告

事業部

こちらから各地域に出向き当法人をPRする地域懇談会を、今年は「第5回地域懇談会 in 新津」として、平成29年11月14日（火）に正会員28名、賛助会員5名、県関係者8名、一般参加者11名、総勢52名で開催致しました。

鈴木理事長から当法人への支援等に対する御礼の挨拶から始まり、星野事業部長から当法人の設立趣旨や、県から委託を受けての高校生の社会資本見学等の事業活動と賛助会員のメリット等を紹介し、一般参加者の賛助会員への入会と支援をお願いしました。

次に「忠犬タマ公物語」を越佐防災テクノ塾頭の山川栄氏よりご講演を頂きました。皆さん、雪崩から主



(山川 栄氏)

人の命を二度も救った村松の奇跡の犬の話に改めて感動しました。

最後に、「新津地域整備部の取組み」と題して新津地域整備部長長谷川文磨氏から、予算、管内を代表する河川の能代川の歴史、担い手に関する取り組みやホットな本年7月の豪雨災害等についてご講演頂きました。



(長谷川新津地域整備部長)

締め括りの懇親会は、奥野副理事長の挨拶に続き、新潟県建設業協会新津支部の大野支部長様長の乾杯で始まり、有意義な意見交換の場となりました。

参加頂きました新津地域整備部、正会員、賛助会員及び一般企業の皆様に厚くお礼申し上げます。

NPO法人にいがた地域創造センターと連携した 地域を支える建設産業の底力発信事業



身近な社会資本の見学会

新潟地域振興局 地域整備部長 久須美憲二

建設産業は、防災・減災対策、災害復旧、除雪等により地域の安心・安全を確保するとともに、社会資本の整備や維持更新を通して、地域経済の発展や雇用を支える欠かすことのできない基幹産業です。県では、建設産業の活性化を図ることを目的に「地域の守り手として輝き続ける産業」を目標に掲げ、建設産業への理解向上に向けた情報発信など様々な施策を展開している他、入職促進にも取り組んでいるところです。

その取組の一つとして、将来の建設産業を担う工業系の高校生により深く建設産業を知ってもらうため、平成25年からNPO法人にいがた地域創造センターと連携し、「身近な社会資本の見学会」を開催しています。

今年は、平成29年9月12日（火）に開催し、新潟県立新潟工業高等学校土木科1年生34名に参加して頂きました。当日は、建設産業全体の役割と魅力を紹介し、その後通船川の成り立ちと山の下閘門排水機場の役割について座学を行いました。山の下閘門排水機場は、ゼロメートル地帯が広がる通船川流域を水害から守るためポンプ排水により通船川の水位を管理するとともに、2mの水位差がある信濃川と通船川の舟運を確保するため閘門機能を備えた防災と地域経済活動を支える施設です。座学後、生徒のみなさんは、小型船に分乗し実際に閘門を通過することで、2mの水位差を体感し、その高低差に驚くとともに排水機場の役割と重要性を実感していました。また、新潟市の協力により見学させて頂いた新潟中央環状線（横越バイパス）道路改良工事の現場では、先輩技術者との意見交換も行われ、道路という身近な社会資本の役割と必要性の他、建設産業の魅力を感じていたようです。

参加された生徒のみなさんには、このような見学会を通して、社会資本の役割や建設産業の魅力と重要性について十分に理解し、将来、土木技術者を目指してくれることを期待しています。

最後になりますが、見学会の企画・運営をいただいた、にいがた地域創造センターの皆様にご礼を申し上げますとともに、今後の益々の御発展をお祈りいたします。



見学会を振り返って（事業部）

■教師の感想

「身近な社会資本見学会」に参加して

新潟工業高等学校土木科 古川 英

（1）はじめに

身近な社会資本の役割や建設産業本来の魅力を深めることを目的に実施されています「身近な社会資本見学会」への参加も、今回で3回目となります。昨年に引き続き今回も、入学して間もない1年生を



室内学習

対象に参加させて頂きました。当科は12年前に2学級（80人）編成から1学級（40人）に改編し送り出す卒業生は減りましたが、現在約75

%の生徒が建設業界へ就職、大学等への進学者を含めると約90%の生徒が建設業界へ進んでいます。将来、建設業を担う生徒を対象とした当見学会は、土木施設が人々の生活に与えている影響を実感させ、建設産業への理解を深める上で絶好の機会であると考えます。

（2）地域振興局での室内学習

見学会に先立ち、県土木部監理課及び新潟地域振興局様より新潟地域の海拔ゼロメートルの現状、地盤沈下のメカニズムや通船川の乗船体験に際しての基礎知識としての通船川の成り立ちと役割について、分かり易い講義をして頂きました。特に、通船川の成り立ちと役割を理解してからの乗船体験は、より興味深い体験となりました。

（3）通船川・山の下閘門乗船体験

乗船後、すぐに山の下閘門で通船川と信濃川との

約2mもある水位差を体験し、驚きと、身近にある海拔ゼロメートル地域を実感していました。山の下閘門が、通船川流域の人々の生命や財産を洪水から守る重要土木施設であることを正しく理解出来たと思います。また、通船川を大きな原木の筏を組んで貯木場まで運搬する光景にも接し、通船川の持つ水運という役割をも理解出来たと思います。

(4) 横越バイパス道路改良工事現場見学

最初に建設中の新潟中央環状線横越バイパス道路改良工事現場にて、施工方法や当施設の役割などについての説明を受け見学に入りました。新潟市内での大規模な道路新設工事は数も少なく、これから土木の専門教科を学ぶ1年生にとって、貴重な体験になったと思います。その後、この現場の施工をされている3社の本校OBの技術者の方々より、建設現場で働く魅力ややりがいについてお話をもらい、多くの質問も交えて意見交換をさせて頂きました。将来、従事するであろう現場技術者から生の声を聴くことは、進路をイメージする良い機会になったと思います。



横越BP見学

(5) おわりに

近年、建設業の担い手不足が取上げられ、「担い手確保」の様々なプロジェクトが産・学・官連携で行われています。本校も積極的に連携し参加させて頂いているところでありますが、このことが生徒たちの土木産業に対する理解と興味を深め、就職希望者の増大に繋がると考えています。

最後になりますが、今回の見学会を企画・運営を頂きました新潟県土木部監理課、新潟地域振興局、にいがた地域創造センターの皆様には改めてお礼を申し上げますとともに、今後も産・学・官の連携が益々発展するようお祈りいたします。

荒川総合水防演習の参加報告

広報部

平成29年5月27日(土)村上市の荒川河川敷で荒川総合水防演習が行われました。北陸地方整備局では毎年、管内主要河川で総合水防演習を行っており、NPO地域創造センターに、昨年の姫川に引き続き出席依頼がありました。

今年は羽越水害から50年の節目を迎えた荒川が会場となり、当日は、前日の激しかった降雨の影響が残る曇天の中、74団体、2,500人と多数の関係者が参加し、本番の活動さながらの演習が展開されました。

演習は、水防団待機から洪水発生、さらには洪水氾濫時の救難救助訓練までタイムライン沿って行われ、積み土のう工のような実践的訓練や自主防衛組

生徒の感想

「見学会レポート」より

- 今回の見学で「通船川の成り立ち」や「新潟の地盤沈下」などの歴史を学べて、現地でのいろいろな施設や機械の解説がとてもためになった。様々な貴重な体験が出来たのでとても良かった。今回の見学会を通して土木施設やそれを造ってる建設産業に興味を持てた。
- 今回の見学をとおして土木の仕事について関心を深めることができました。自分たちが協力して作ったものが人々に使ってもらえる喜びややりがいを感じられるような仕事につけるようにがんばりたいと思った。
- 質問コーナーや意見交換の機会がとても多く、分からないことや知りたい事が分かり、とてもいい機会だった。今回学んだことや分かったことを2年後の就職の時に活かせるようにしたいです。またこのような職場見学の機会があったらぜひまた行きたいです。

受託者の感想

今回の見学会は、①乗船体験をし既存の社会資本(通船川、山の下閘門排水機場)を見学する。②建設中の現場(横越バイパス)を見学する。③現場で働く人(若手技術者)と意見交換をする。など、我々の生活・暮らしの安全安心を守る建設産業の魅力と重要性、また、そこで働く人から土木技術、魅力などを聴くことにより、「担い手」の重要性や土木事業に関わるやりがいや魅力をアピールすることがポイントでした。

現場で働く人との意見交換では多くの質問が出され、生徒の学習意欲を感じました。また、生徒からの見学会レポートにも「意見交換の機会が多く良かった。」「土木の仕事に関心を持った。」など、記されており、今回の事業が今後の建設産業への担い手確保・人材育成支援に有意義であったと考えております。

織をはじめとする地域社会が一体となった水防活動、洪水情報のプッシュ型配信を活用した避難訓練や関係機関によるヘリやボートでの救助訓練などが実施されました。



そのほか、情報発信及び展示・体験コーナーでは、豪雨体験、流速体験、土のう作り体験などのコーナーが設けられ、地元小学生に水害への恐ろしさや水防の必要性を知ってもらう体験学習などが行われました。

演習参加者にとりまして、甚大だった羽越水害での被害を2度と起こしてはならないとの決意を新たにするとともに、日頃からの訓練の重要性を実感した日となりました。

「長生橋80周年事業」 事業報告

長岡地域振興局 地域整備部

長岡の東西を結ぶ大動脈であり、「長岡まつり大花火大会」のナイアガラの舞台となる現在の3代目長生橋は、今年（平成29年）、昭和12年10月の完成から80年と節目の年を迎えました。

この記念すべき80周年を迎えた長生橋について、これまでに果たしてきた役割や魅力等を再認識するとともに、今後のあり方を考える機会とするため、長岡商工会議所、長岡地域振興局、長岡市、NPO法人にいがた地域創造センターなど12の機関による「長生橋80周年事業実行委員会」を組織し、7月と10月に開催したシンポジウムをはじめとして、歴史パネル展、親子見学会、写真コンテストなどの事業に取り組んできました。

まず、事業の皮切りとなる7月9日に開催した「ありがとう長生橋 長生橋の魅力（ステキ）再発見シンポジウム」では、定員を大幅に上回る多数の方から参加頂き、改めて、長岡市民の長生橋への関心の高さが伺えました。シンポジウムでは、河井継之助記念館館長の稲川氏より、3代目長生橋建設に関わった人々の努力に焦点を当てて講演を頂き、パネルディスカッションでは、パネリストの方々から長生橋の魅力や今後より魅力を高めるための提言を行って頂きました。

そして、7月29日から8月7日までの期間において、フェニックス大手・イーストスクエアにて開催した「長生橋歴史パネル展」では、初代、2代目、3代目の長生橋に関する貴重な写真や資料を、歴史背景や解説文とともに展示し、それぞれの長生橋が果たしてきた役割を振り返りました。開催期間が「長岡まつり」と重なったことから、市外や県外から訪れた方々にも「長生橋」を知ってもらう、よい機会となりました。

また、8月19日に開催した「長生橋親子見学会」は、9組20名の方々から参加頂き、高所作業車から長生橋の特徴的な構造であるゲルバートラスを、地域整備部職員の解説付きで間近で見させて頂きました。参加者からは、「普段見られないところが見られて、



ライトアップの様子



10月のシンポジウムの様子

うれしかった」などの意見があり、非常に好評な取組となりました。

そして、80周年事業の集大成となる「長生橋のこれからを考えるシンポジウム」を、10月14日にアオーレ長岡にて開催しました。橋の専門家である長岡技術科学大学宮下准教授より、「長生橋の現状、課題、長寿命化に向けて」と題して基調講演を行って頂いたほか、パネルディスカッションでは、宮下准教授のほか、長岡の歴史に造詣の深い方や普段利用するタクシー会社の方、管理者である長岡地域整備部大野部長を加えたパネリストのそれぞれの立場から、高齢化・老朽化した現在の長生橋の今後のあり方について、語り合ってもらいました。

また、長生橋の魅力や関心をより一層高めるために、市民や企業・団体からの募金・協賛金による長生橋ライトアッププロジェクトを企画し、24基のLEDライトにより、13連の上曲弦方式のトラスを夜空に美しく、浮かび上がらせるとともに、長岡大花火大会の長生橋ナイアガラ花火直前にお披露目として点灯式を行い、約100万人の観覧者から長生橋80歳をお祝いして頂きました。

今回、長生橋80周年事業と併せて、新聞の特集記事やテレビの特別番組が放送されるなど広くマスコミにも取り上げてもらい、長生橋のこれまでの歴史や役割と現状などについて、一般の方々にも広く認識され、理解が深まったとともに、橋をはじめとしたインフラへの関心が高まったものと考えています。

最後に、NPO法人にいがた地域創造センターからは、実行委員会の委員や部会員として本事業にご協力いただいたほか、長生橋ライトアップの協賛金にも多大なるご支援いただき、誠にありがとうございました。

皆様のご健勝と長生橋が今後とも末永く愛され続けられるよう祈念して、事業報告とさせていただきます。

活動状況報告

(平成28年11月～平成29年10月)

■平成28年

- 11月14日 第52回 理事・監事会議
(技術士センタービル I 8階 会議室)
・平成27年度決算について
・平成28年度予算(案)について
・地域懇談会(in 南魚沼)の実施状況について
(山岸理事長以下21名(全22名))
- 12月20日 第53回理事・監事会議
(新潟東映ホテル 3階会議室)
・理事・監事の退任、就任及び承諾について
(山岸理事長以下21名(全22名))
- 12月20日 第54回理事・監事会議
(新潟東映ホテル 3階会議室)
・理事長・副理事長の互選について
(鈴木理事長以下23名(全24名))
- 12月20日 平成28年度通常総会 (新潟東映ホテル)
・平成27年度事業報告及び収支決算の承認について
・平成28年度事業計画及び収支予算(案)について
(正会員280名
内 出席者113名 委任状提出者126名)
- 12月20日 講演会及び懇親会 (新潟東映ホテル)
第1部
講 師：新潟県醸造試験場長 金桶 光起 氏
演 題：「新潟の酒の魅力について」
第2部
講 師：新潟県土木部長 美寺 寿人 氏
演 題：「最近の土木行政について」



■平成29年

- 1月25日 身近な社会資本の見学会振返り会議
(監理課・新潟地域整備部：6名、
NPO：12名、計18名)
- 2月8日 河川情報モニター地域担当者会議
(技術士センタービル 8階)
・新潟県の河川管理について
・平成29年河川情報モニターの実施計画について
・平成28年河川情報モニター実施に関する問題点等について
(河川管理課：4名、地区担当者：16名、
NPO：9名、計29名)
- 4月17日 第29回新潟県都市緑花フェア
(新潟県スポーツ公園)
(鈴木理事長以下4名)
- 5月27日 荒川総合水防演習 (村上市荒川縁新田地先)
(鈴木理事長)
- 6月1日 都市公園情報モニター担当者会議
(都市整備課：4名、地区担当者：13名、
NPO：5名、計22名)
- 6月5日 第55回理事・監事会議
(建設技術センター 会議室)
・今年度の事業活動について
(鈴木理事長以下22名(全23名))

- 6月16日 羽越水害復興50周年記念事業協賛
- 6月16日 長生橋80年プロジェクト協賛
- 7月12日 にいがた道の研究会 第15回トーク会
(新潟会館)
講演1 新潟県の道路管理を巡る最近の話題2017
新潟県土木部道路管理課長 丸山 和浩 氏
講演2 新潟水俣病の歴史と教訓について
県立環境と人間のふれあい館館長 塚田 真弘 氏
[支援事業]
・会員及び県関係者 約70人
- 7月26～31日 パネル展
(登録有形文化財 万内川石積堰堤群等)
会場：道の駅 あらい(くびき野情報館)
(万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
[支援事業]
・展示場入場者 約224人
- 8月7日 「身近な社会資本の見学会」の事業実施に向けた担当者会議
(新潟地域振興局 竹尾庁舎 2F 会議室)
・見学会事業の実施概要について
・実施日：9月12日、予備日9月20日
・実施における運営体制について
(監理課：1名、新潟地域整備部：2名、
NPO：21名、計：24名)
- 8月11日 万内川砂防公園サマーフェスティバル
(万内川砂防公園)
[支援事業]
・砂防公園入場者 約2,008人
- 9月12日 「身近な社会資本の見学会」の実施
[新潟県土木部広報事業]
・対象者：新潟工業高校
生徒34名、引率者2名
・実施内容
①室内学習(新潟地域振興局)
身近な社会資本の役割、建設産業の役割、担
い手育成を資料で学ぶ。
②既存の社会資本見学
(乗船体験：山ノ下排水機場、通船川)
舟を使用して通船川を周遊し、河川から社会
資本の意義及び整備状況を確認する。
③建設中の社会資本見学
新潟市発注：新潟中央環状線 横越バイパス工事
施工業者：横越バイパス工事連絡協議会
(株)大栄建設、(株)大野建設、(株)水倉組
(土木部監理課企画調整室：1名、
技術管理課：1名、
新潟地域整備部：山郷副部長以下4名、
NPO：鈴木理事長以下25名)
- 10月17日 第56回理事・監事会議
(建設技術センター 会議室)
・「身近な社会資本の見学会」実施報告
・地域懇談会(in 新津)の開催について
・雇用条件および就業規則等の改正について
・支援事業への補助金について
(鈴木理事長以下20名(全23名))

河川情報モニター実施報告

企画部

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動も12年目となりました。平成29年は、144名（延べ483名）の会員の皆様のご協力により、4～10月で4回程度129河川の巡視を無事に行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化、一部地域での会員数の不足など、いくつかの課題を抱えており、今後の活動に影響が出ないような工夫が必要になっております。会員の皆様におかれましては、ふるさと貢献など地域を越えたご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

平成29年（4～10月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長(km)	NPO配置人員	NPO実施回数 延人員
	主任	副主任				
村上	高橋 一男	伊藤 勝夫	9	13.4	5	12
新発田	渡邊 秀美	鈴木 輝正	1	27.0	11	35
新津	武田 光男	佐藤 俊治	32	118.0	17	62
津川	伊藤 恒彦	井上 宏	3	17.8	3	9
新潟	高橋 英一	村木 昭一	6	45.6	12	12
巻	佐藤 敦	真田 明	7	138.4	12	38
三条	河内 孝	星野 正三	12	107.4	8	32
長岡	吉野 利夫	新保 弘	9	116.8	28	108
与板	吉野 利夫	新保 弘	3	47.0		
小千谷	吉野 利夫	新保 弘	6	37.8		
魚沼	小幡 利永	磯部 剛	2	36.4	3	12
十日町	井口 久雄	樋口 利幸	10	105.2	9	30
南魚沼	中澤 淳一	柄沢 安衛	3	30.6	4	15
柏崎	二宮 優	野中 孝次	3	49.2	6	20
上越・上越東	上原 正雄	江口 正芳	9	137.3	16	62
糸魚川	江口 正芳	上原 正雄	3	40.6	4	12
佐渡	佐々木敏和	小鷹 賢正	11	56.0	6	24
計			129	1,124.5	144	483

都市公園情報モニター実施報告

企画部

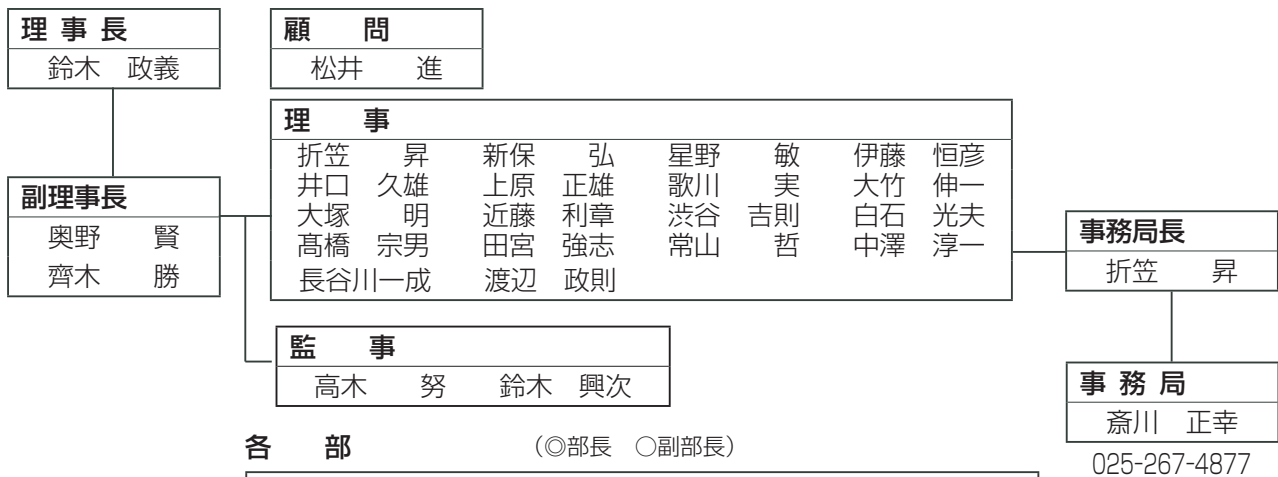
県では、平成19年より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年からボランティアとして参加しており、おおむね年4回モニター報告をしています。

平成29年 都市公園モニター担当者

公園名	担当者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	古嶋 秀一	白石 光夫
聖籠緑地・島見緑地	佐藤 敦	長谷川一成
鳥屋野潟公園女池・鐘木地区	高木 努	阿部 高次
スポーツ公園北地区	村木 昭一	田中 明
スポーツ公園南地区	奥野 賢	品田 吉廣
県立植物園	湯田 寛	笹川 栄
大潟水と森の公園	諏訪部 豊	金子 進

当NPO法人の役員（任期2年）及び各部員は次のとおりです。

◆ **組織図**（理事21、監事2）



総務部	◎折笠 昇 田宮 強志 近藤 利章 斎藤 和幸 ○高橋 宗男 乙川 秀夫 石川 幸作 田中 明
企画部	◎新保 弘 中澤 淳一 上原 正雄 白石 光夫 ○渋谷 吉則 袖山 英司 高柳 寿光
事業部	◎星野 敏 歌川 実 伊藤 勝夫 真田 明 ○常山 哲 古嶋 秀一 本田 敬二 村木 昭一
広報部	◎伊藤 恒彦 長谷川一成 渡辺 政則 高橋 英一 ○大竹 伸一 鈴木 義朗 藤田 太子

会員の動向

〈会員数〉

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成22年度 H22.12月	平成23年度 H23.12月	平成24年度 H24.12月	平成25年度 H25.12月	平成26年度 H26.12月	平成27年度 H27.12月	平成28年度 H28.12月	平成29年度 H29.12月
正 会 員	164	295	292	293	296	298	298	280	
賛 助 会 員	個人	—	1	1	1	1	1	1	
	法人	—	152	152	152	156	157	159	
計	164	448	445	446	453	455	456	440	

編集後記

お忙しい中、ご寄稿いただきました皆様、大変ありがとうございました。

今年は、梅雨前線や台風21号などによる災害が県下の各地で発生し、忙しい年の瀬と向かえる方もいるのではないのでしょうか。

今後も建設技術の知識を活かし県民のニーズに応じた社会貢献活動を通じて、安全・安心・快適な地域の創造に寄与できればと思います。

(1)



特定非営利活動法人(NPO法人)

にいがた地域創造センター

理事長 鈴木 政義

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18
(一財)新潟県建設技術センター内3階
TEL/FAX (025)267-4877